

三宅医師によるミニ講座

鳳クリニックにつづき



総合病院で オレンジカフェ 認知症

はじめました

みんなで楽しく、認知症の正しい知識を学びましょう

8月20日、耳原総合病院ではじめて、オレンジカフェを開催することができました。

耳原鳳クリニックでは、以前から定期開催されていて、5月のフルオープンまつりでの「出前カフェ」をうけ、「早く総合病院でも…」と準備をすすめてきました。

外来でポスターを見たご夫婦や、友の会役員さんのウォーキング仲間にも声をかけあい、ボランティアをしていて認知症をもっと知りたい…など11人の方が参加されました。

記念すべき第1回では、三宅徹也医師の「認知症ってどんなもの」のミニ講座の後、近藤元作業療法士による認知症予防に効果的な「頭と身体を同時に使う運動」や、風船パレーなど行いました。

そのあとはコーヒーを飲みながら、職員も一緒に歓談。あっとい間の楽しい2時間でした。



参加者で交流

「最近もの忘れが気になっていけど、大丈夫とわかって安心した」「ボランティアをしているので、いろいろ勉強になり良かった」「次の開催が待ち遠しい、ぜひ参加したい」と感想をいただきました。



近藤作業療法士による風船パレー

2025年には、65歳以上の4人に1人が、認知症やその予備軍といわれています。

「認知症になっても、住み慣れた地域で生活できる」ために、「オレンジプラン」が国の政策として打ち出されました。認知症は決して特別なものではなく、誰でもなりうる病気です。

「オレンジカフェ」では、認知症予防や症状の改善につながる機会として、認知症の方やその家族、地域住民や医療・介護の専門職などが気軽に集い、情報交換や相談ができる場所です。

難しいことは抜きに、「だれでも気軽に参加できる」オレンジカフェに、皆さんぜひお越しください！

● 次回は11月5日(土) 14時に開催します。

(耳原総合病院 認知症認定看護師 春木康子)

総合事業とは

介護予防・日常生活支援総合事業（以下「総合事業」という）は、市町村が中心となって地域の実情に応じて、住民等の多様な主体が参画し、多様なサービスを充実させることで、地域の支え合いの体制づくりを推進し、要支援者等に対する、効果的かつ効率的な支援を可能とすることをめざすとして、2018年度からの完全実施にむけ準備が進められています。

シリーズ
現場からの
視点

その20

来年4月から 堺市でも

2017年4月からは堺市でも「総合事業」が始まります。通所型サービスでの一例では表のように新たに「担い手登録型」のサービスを新設しています。

通所型サービス（堺市の総合事業案）

(I) 現行と同じ通所サービス	現行相当の基準・報酬
(II) 担い手登録型通所サービス	人員基準緩和・報酬現行の75%・専門職の配置は不要
(III) 短期集中通所サービス	専門職による短期間（3カ月）の機能訓練

介護の制度改悪で広がる利用者の困難

堺市の新総合事業（通所型サービスでの例）

通所型サービスでは主な利用の約7割が要支援1〜要介護2の比較的程度の方たちです。そのような方たちが新総合事業に移行し現行相当サービスではなく担い手登録型サービスに誘導するような実践が行われた場合、認知症を患っておられる高齢者の方には大変ストレスがかり、症状を悪化させる事も予想されます。

政府が検討している 見直し案

2018年度には政府はさらに介護サービスの給付削減・利用費負担増を2017年の通常国会に提出するとしています。この介護給付抑制の流れは、要介護1・2の方に目が向けられており、「総合事業」に移行させようという政策が準備されています。



現在、同仁会では「介護保険制度の次期見直し」に対する「請願署名」を各事業所で実施しています。ご協力をお願いいたします。住み慣れた街で十分な介護サービスを受けられるような制度になるようにこれからも情勢を注視し、声を上げていきます。

